

第 29 期決算公告

2019 年 3 月期

< 計 算 書 類 >

貸 借 対 照 表

損 益 計 算 書

株主資本等変動計算書

個 別 注 記 表

広島市中区基町地下街 100 号

広島地下街開発株式会社

貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	761,356	流動負債	7,058,173
現金預金	638,408	短期借入金	6,260,151
売掛金	21,411	1年以内に返済予定の長期借入金	304,966
前払費用	17,312	未払金	394,218
未収入金	84,396	未払費用	4,363
その他の流動資産	437	未払法人税等	183
貸倒引当金	△608	未払消費税等	9,218
		前受賃貸料	46,527
		預り金	18,010
		ポイントサービス引当金	20,532
固定資産	12,118,227	その他の流動負債	5
有形固定資産	7,463,138	固定負債	12,280,998
建物	7,452,608	長期借入金	11,670,300
器具及び備品	10,380	退職給付引当金	38,935
建設仮勘定	150	預り保証金	18,445
無形固定資産	8,074	預り敷金	553,318
ソフトウェア	6,668		
電話加入権	1,406		
投資その他の資産	4,647,015		
出資金	40		
長期前払費用	4,626,975		
長期預託金	20,000		
		負債合計	19,339,171
		純資産の部	
		株主資本	△6,459,588
		資本金	100,000
		利益剰余金	△6,559,588
		その他利益剰余金	△6,559,588
		繰越利益剰余金	△6,559,588
		純資産合計	△6,459,588
資産合計	12,879,583	負債・純資産合計	12,879,583

記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しております。

損益計算書

(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		1,105,083
売 上 原 価		881,872
売 上 総 利 益		223,211
販売費及び一般管理費		170,826
営 業 利 益		52,385
営 業 外 収 益		
受取利息及び配当金	8	
受取手数料	6,228	
雑 収 入	2,343	8,579
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	81,232	
債 務 保 証 料	162	
雑 損 失	82	81,476
経 常 損 失		20,512
税 引 前 当 期 純 損 失		20,512
法人税、住民税及び事業税		183
当 期 純 損 失		20,695

記載金額は、千円未満を四捨五入して表示しております。

株主資本等変動計算書

(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本				純 資 産 合 計
	資 本 金	利益剰余金		株 主 資 本 合 計	
		その他利益 剰 余 金	利益剰余金 合 計		
		繰 越 利 益 剰 余 金			
当期首残高	100,000	△6,538,894	△6,538,894	△6,438,894	△6,438,894
当期変動額					
当期純利益	—	△20,695	△20,695	△20,695	△20,695
当期変動額合計	—	△20,695	△20,695	△20,695	△20,695
当期末残高	100,000	△6,559,588	△6,559,588	△6,459,588	△6,459,588

個別注記表

(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

I. 継続企業の前提に関する注記

当社は、第16期(2005年度)に14,812,000千円の減損損失を計上した結果、当事業年度においても引き続き、債務超過となっております。

この結果、当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況を受けて、筆頭株主の広島市及び借入先金融機関と策定した経営改善スキームに基づく支援を受けながら売上高の増加と利益確保に努めております。

この経営改善スキームの内容は以下のとおりであります。

- ① 広島市は、当社への既存貸付金の金利軽減(1.0%を0.1%に引き下げ)、返済期間の繰延べ(30年間から87年間に57年間繰延べ)及び当社の金融機関からの借入債務に対する損失補償(限度額17,329,000千円)を行う。
- ② 借入先金融機関は、最大12,529,000千円の追加融資枠(金利1.0%)を設定し、既存貸出金の金利軽減(2.575%を引き下げ、当事業年度は0.3%)及び返済期間の繰延べ(25年間から39年間に14年間繰延べ)を行う。また、追加融資の返済についてはプロラタ返済(借入残高比率による計画返済)の同意を得ております。

この他、一層の経費縮減や広告収入などの収入増加に努めております。

テナント売上高は、生活雑貨を除き売上の不振が続き、退店による空き区画の増加により、前年比312,729千円(4.8%)減少しました。

当社売上高も、衣料品、服飾雑貨の売上不振と、退店による家賃収入の減少により前年比31,433千円(2.8%)減収となりました。また、水道光熱費や販売促進費等の経費削減に努めましたが、当期経常損失は20,512千円となり、当期純損失も20,695千円となりました。

この結果、当事業年度末において債務超過額は6,459,588千円、借入金残高は18,235,417千円となり、その解消や返済に長期間を要することや今後の情勢の不透明性に鑑みると、現時点では、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、計算書類及びその附属明細書は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を計算書類及びその附属明細書には反映しておりません。

II. 重要な会計方針

貸借対照表及び損益計算書作成に当たって採用した重要な会計処理の原則及び手続きは次のとおりであります。

1. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建	物	4年～60年
器具及び備品		5年～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) 長期前払費用

支出の効果の及ぶ期間を見積り、均等償却しております。

2. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) ポイントサービス引当金

発行済みポイントの利用に備えるため、翌期以降に利用されると見込まれるポイントに対する費用相当額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務（簡便法）を計上しております。

3. 消費税等の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

Ⅲ. 貸借対照表の注記

1. 担保に供している資産

建	物	7,452,608千円
器具及び備品		10,380千円
計		7,462,988千円
担保されている債務		
短期借入金		6,260,151千円
1年以内に返済予定の長期借入金		304,966千円
長期借入金		11,670,300千円
計		18,235,417千円
2. 有形固定資産の減価償却累計額		6,041,730千円
3. 国庫補助金等に基づく圧縮記帳額		8,238,139千円

Ⅳ. 株主資本等変動計算書の注記

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：株)

株式の種類	当期首残高	増加	減少	当期末残高
普通株式	254,000	—	—	254,000

V. 関連当事者との取引に関する注記

1. 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
法人 主要 株主	広島市	広島市中区 国泰寺町 1-6-34	-	地方 公共 団体	(被所有) 43.3	-	-	市道及び 公衆便所 の受託管 理	117,799	-	-
								資金の借 入	-	長期借入 金	6,672,000
								利息の支 払	6,672	-	-
								経営支援 (被補償)	11,536,745	被補償債 務	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 長期借入金に対して、当社は建物及び器具備品を担保に提供しております。

3. 損失補償は、債務超過に伴う経営改善スキームの一環として、金融機関の当社に対する貸出金に対して広島市の損失補償を受けているものであり、経営改善スキームに基づく協定書により決定しております。ただし、損失補償に係る保証料はありません。なお、当該協定書に基づき長期借入金に係る適用金利は0.1%となっております。

2. 役員及び個人主要株主等

属性	氏名	住所	資本金 又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	松原裕一	-	-	当社監査役 広島信用金庫 常務理事	なし	資金の借入	資金の借入	28,366	短期借入金	1,404,981
								-	長期借入金	373,000
							利息の支払	14,639	前払利息	3,137
							債務保証 (被保証)	113,464	被保証債務	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 資金の借入及び利息の支払いについては、監査役松原裕一氏が代表権を有する第三者（広島信用金庫）との取引であり、取引条件は、I. 継続企業の前提に関する注記に記載の通りです。また、資金の借入の取引金額は、当事業年度における借入増加額であり、借入金に対して、建物及び器具備品を担保に提供しております。

3. 債務保証は、一般財団法人民間都市開発推進機構の当社に対する貸出金に対して金融機関の債務保証を受けているものであり、被保証債務に係る債務保証料の支払いは、広島市の損失補償に伴い行っておりません。

VI. 1株当たり情報に関する注記

- 1株当たり純資産額 $\Delta 25,431$ 円 45 銭
- 1株当たり当期純損失 81 円 47 銭